

# 令和4年度 第14回 関東地区 特別活動研究協議大会 群馬大会

## 令和4年度 群馬県キャリア教育研究大会

【大会主題】 子供のよさや可能性を伸ばし、  
確かな資質・能力を育む特別活動



富岡製糸場

- 期 日** 令和4年8月24日(水)
- 会 場** Gメッセ群馬よりオンライン配信
- 主 催** 群馬県小学校中学校教育研究会 小学校特別活動部会  
関東地区特別活動研究協議会

共催 群馬県小学校中学校教育研究会 中学校特別活動部会 進路指導研究部会  
後援 群馬県教育委員会 高崎市教育委員会  
群馬県小学校長会 群馬県中学校長会  
(公財)日本教育公務員弘済会群馬支部  
全国特別活動研究会 日本特別活動学会 日本特別活動学会群馬支部





谷川岳



尾瀬



草津温泉



吹割の滝



伊香保温泉



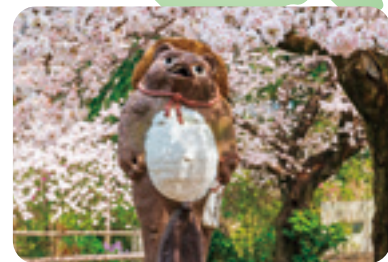
桐生八木節まつり



富岡製糸場内



高崎縁起だるま



分福茶釜の茂林寺

## 目 次

祝 辞	群馬県教育委員会 教育長 平田 郁美 様……	2
	高崎市教育委員会 教育長 飯野 眞幸 様……	3
挨拶	群馬大会実行委員会 委員長 諸田 義行 ……	4
大会日程	……	5
講師経歴	國學院大學人間開発学部 教授 杉田 洋 先生 ……	6
講演メモ	……	7
大会主題	……	8
分科会一覧	……	10
第1分科会	……	12
第2分科会	……	16
第3分科会	……	20
第4分科会	……	24
関東地区特別活動研究協議会 会則	……	28
関東地区特別活動研究協議会 役員名簿	……	29
第14回関東地区特別活動研究協議大会群馬大会 役員名簿	……	30



## 祝 辞

群馬県教育委員会

教育長 平田 郁美

第14回関東地区特別活動研究協議大会群馬大会兼群馬県キャリア教育研究大会が盛大に開催されますことをご喜び申し上げます。また、関東地区特別活動研究会及び群馬県小学校中学校教育研究会小学校特別活動部会、中学校特別活動部会、進路指導研究部会の皆様におかれましては、これまで本県の特別活動の充実と発展に御尽力いただいておりますことに対し、深く敬意を表します。

さて、本県では、第2期群馬県教育大綱及び第3期群馬県教育振興基本計画の基本目標に「たくましく生きる力をはぐくむ～自らの可能性を高め、互いに認め合い、共に支え合う～」を掲げ、誰一人取り残さない学びを推進するとともに、生涯にわたり一人一人がもつ個性や能力を伸ばし、自ら学び、自ら考える力の育成や、誰もが互いに多様性を認め合い、共に支え合う教育を推進しております。

また、現在、本県では国のGIGAスクール構想を踏まえ、小中学校に整備されたICT端末を活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一層の促進に取り組んでおり、直接体験が基本となる特別活動においても、活用する場面を適切に選択し、教師の丁寧な指導の下で効果的に活用がされてきています。

そのような中、新型コロナウイルス感染症の拡大により、様々な行事等が制限されたことで、自主的、実践的な集団活動を通して、多様な他者と協働し、互いのよさや可能性を発揮できるようにする特別活動の価値が再認識されているところです。そのため、学校行事等も含む学校教育ならではの学びの実現を目指し、学校における働き方改革を進めながら、子供たちや学校の実態に応じて創意工夫することで、特別活動やキャリア教育を一層充実させていくことが重要となっております。

このような折り、「子供のよさや可能性を伸ばし、確かな資質・能力を育む特別活動」を大会主題とし、集団や社会における問題を捉え、よりよい人間関係の形成や、よりよい集団生活の構築、社会への参画及び自己実現と関連付けた貴重な実践が発表されますことは、誠に時宜を得たものと考えます。

結びに、本大会の開催に当たり、御尽力を賜りました関係者の皆様に心から感謝を申し上げますとともに、本研究会のますますの御発展と、皆様方の御活躍を祈念申し上げます、祝辞といたします。



## 祝 辞

高崎市教育委員会

教育長 飯野 眞幸

第14回関東地区特別活動研究協議大会が、高崎市を会場に開催されますことを心よりお祝い申し上げます。また、本大会並びに群馬県小中学校教育研究会特別活動部会が、特別活動についての充実と研究を積み重ね、その発展に大きく貢献しておりますことに対し、心より敬意を表します。

さて、近年の急激な社会の変化に加え、多発する自然災害や感染症の流行など予測困難な時代において、学校教育では、未来を生き抜くために必要な資質・能力を確実に育むことが求められています。そのような中、集団や自己の課題を見いだし、解決していく力、自己の生き方についての考えを深め、自己実現を図ろうとする態度など、特別活動を通して育まれる資質・能力は、まさに未来を生き抜くために必要な力であると言えます。また、キャリア教育の要でもある特別活動は、将来の自己実現に向け、発達段階に応じたキャリア発達を促す場としてその重要性を増しており、小・中・高等学校のつながりを踏まえた指導のより一層の充実が期待されるところです。このように、特別活動の役割はますます大きくなっています。

本市では、「たくましく、すすんで未来を切り開く子ども」を目指す子ども像とし、平成23年度に私が教育長に就任して以来、いじめ防止を核とした取組を展開してまいりました。「いじめ防止の取組は子どもの命を守る取組である」との共通認識のもと、全ての学校で「学校におけるいじめ防止プログラム」に基づいた取組を進めております。各学校の代表児童生徒による「いじめ防止こども会議」や「リーダー研修会」でまとめられたいじめをなくすための提言等は、各学校の児童会・生徒会、委員会活動、学級活動等で生かされ、各学校では、これらの取組を通して、いじめをなくすための子ども主体の取組の充実を図り、よりよい自分や学級・学校生活、人間関係の構築や自治的能力の育成につなげております。

今回、「子供のよさや可能性を伸ばし、確かな資質・能力を育む特別活動」を大会主題とし、実践や発表が行われますことは、特別活動の充実に向けた研究がより一層の推進と予測困難な時代を生き抜くために必要な資質・能力の育成に資するものであり、大変意義深いものであると感じています。今大会が、学校と子どもたちにとって実り多きものとなることを願っております。

結びに、本大会の開催にあたり、全国特別活動研究会会長様、群馬県特別活動研究会会長様をはじめ、役員及び関係者の皆様のご尽力に感謝の意を表すとともに、本大会の成功とご参会の皆様のご活躍を祈念いたしまして、祝辞といたします。





## 群馬大会開催にあたって

群馬大会実行委員会

委員長 諸田 義行

第14回関東地区特別活動研究協議大会を群馬県で開催できますことを大変嬉しく思います。

本県では、ここ数年「子供たちのよさや可能性を伸ばす特別活動」を一貫したテーマに掲げ特別活動の研究に取り組んできました。このことは、昨年度の埼玉大会の研究テーマとも共通しています。さらに、埼玉大会での「子供たちに確かな資質・能力を育成するために、何をどのように行っていくか」が重要であるとの提言を受け止め、本大会の研究テーマを「子供のよさや可能性を伸ばし、確かな資質・能力を育む特別活動」としました。

特別活動はキャリア教育の要であることから、本県では平成30年度より県キャリア教育部会のもと中学校特別活動部会及び進路指導研究部会と合同で研究を進めてきた経緯があります。従って、本大会は関東地区特別活動研究協議大会と群馬県キャリア教育研究大会を兼ねて開催しています。分科会においても、中学校の生徒会活動、小学校高学年・中学校のキャリア教育の提案が行われます。

今日本は、新型コロナウイルス感染症拡大の収束が未だ見通せぬ中であって、新たな社会の在り方を模索している最中です。変化の激しい時代に生きていること、予測の難しい未来を切り拓いていかなければならない状況にあることを誰もが実感しています。多様な人々と関わり、互いのよさや可能性を発揮しながら課題を解決してゆく力を育む特別活動の重要性が、改めて注目されています。

本県にとって関東地区特別活動研究協議大会の開催は初めてのことであり、この日まで手探りで準備を進めてきました。コロナ禍ということもあり、開催方法についても議論を重ねてきました。その結果、本大会をオンラインで配信するというかたちにさせていただきました。会員の皆様と直接議論しご指導をいただけないのは残念ですが、本県の提案が少しでも特別活動研究の前進に寄与できたら幸いです。

結びに、本大会開催にあたり、多大なご支援ご協力を給われました群馬県教育委員会、高崎市教育委員会をはじめ各教育機関及び各教育団体の皆様、またご講演を快くお引き受け下さった國學院大學人間開発学部教授杉田洋先生に対しまして心より感謝申し上げます。

# 令和4年度 第14回 関東地区特別活動研究協議大会 群馬大会

## 令和4年度 群馬県キャリア教育研究大会

【大会主題】 子供のよさや可能性を伸ばし、  
確かな資質・能力を育む特別活動

期 日 令和4年8月24日（水） 9時30分～16時15分

開催方法 オンライン開催（YouTube 配信）

会 場 Gメッセ群馬

主 催 群馬県小学校中学校教育研究会 小学校特別活動部会  
関東地区特別活動研究協議会

共 催 群馬県小学校中学校教育研究会 中学校特別活動部会  
群馬県小学校中学校教育研究会 進路指導研究部会

後 援 群馬県教育委員会 高崎市教育委員会  
群馬県小学校長会 群馬県中学校長会  
(公財) 日本教育公務員弘済会群馬支部  
全国特別活動研究会  
日本特別活動学会 日本特別活動学会群馬県支部

日 程 \*全体会・分科会ともにGメッセよりYouTube 配信

【全体会】

9:30～9:50 開会行事

10:00～12:00 基調提案  
講 演 子供を伸ばし、学級・学校を創る特別活動の教育力  
—集団の教育力の再構築と活用—  
國學院大學人間開発学部教授 杉田 洋 先生

【分科会】

	第1分科会 ①12:30～12:50 ②12:55～13:15	第2分科会 ①13:30～13:50 ②13:55～14:15	第3分科会 ①14:30～14:50 ②14:55～15:15	第4分科会 ①15:30～15:50 ②15:55～16:15
提案①	学級活動（低学年） 高崎市立 吉井西小学校 柴崎 優紀 教諭	学級活動（中学年） 伊勢崎市立 坂東小学校 関塚 翔太 教諭	学級活動（高学年） 館林市立 第十小学校 久木原 悠太 教諭	生徒会活動（中学校） 渋川市立 古巻中学校 中林 涼 教諭
提案②	学校行事 南牧村立 南牧小学校 外所 聖貴 教諭	児童会活動 前橋市立 広瀬小学校 三輪 信子 教諭	特別活動とキャリア形成 （キャリア教育） 太田市立 敷塚本町南小学校 神澤 優子 教諭	キャリア教育（中学校） 玉村町立 南中学校 菅原 颯樹 教諭

\*太枠内は「キャリア教育」の発表

# 杉田 洋 (すぎた ひろし)



## ■ 國學院大學 人間開発学部 教授

前文部科学省 初等中等教育局 視学官  
 日本特別活動学会 理事 全国特別活動研究会 顧問  
 NHK「でーきた」番組委員

### 教職・委員歴等

- 学生時代に青少年の健全育成のためのボランティア活動に没頭する。このことにより埼玉県から「アキラ・かが」に派遣される。(これらの経験から教職を目指すことに…)
- 埼玉県浦和市立小学校 (昭和55.4～平成10.3 4校を経験) 18年間
- 浦和市教育委員会指導主事 (平成10.4～平成13.3) } 6年間
- さいたま市教育委員会主任指導主事 (平成13.4～平成16.3)
- 文部科学省初等中等教育局 教育課程科 教科調査官 (平成16.4～) } 11年間
- 文部科学省初等中等教育局 視学官 (平成25.4～)
- 國學院大學教授 (平成27.4～)
- 文部省刊行「小学校特別活動指導資料」作成協力者 ----- (平成6年)
- 小学校学習指導要領特別活動編・解説 作成協力者 ----- (平成10年)
- 小学校学習指導要領特別活動編・解説 教科調査官 ----- (平成20年)
- 文部省国立教育政策研究所 特別活動教師用指導資料 視学官として ----- (平成25・26年)  
 楽しく豊かな学級・学校生活をつくる特別活動(小学校編) 文溪堂
- モンゴル国へのTOKKATSUの導入に関わる(モンゴル教育大学客員教授として) (平成27・28年)
- エジプト共和国へのTOKKATSUの導入に関わる (平成28～現在)
- 中央教育審議会教育課程部会特別活動ワーキンググループ委員 ----- (平成27.11～平成28.6)
- 小学校学習指導要領解説特別活動編作成協力者 ----- (平成28.7～H29.5)
- 文科省国立教育政策研究所 特別活動教師用指導資料作成協力者 主査 ----- (平成29・30年)  
 みんなでよりよい学級・学校生活をつくる特別活動(小学校編) --- 文溪堂
- 「評価規準, 評価方法等の工夫改善に関する調査研究(小学校特別活動)」  
 (文科省国立教育政策研究所) 協力者会議主査 (平成31・令和01)
- 「小学校・特別活動映像資料」(文科省国立教育政策研究所) 協力者会議主査 (令和02・令和03)

### ▶▶▶ 主な著書

- よりよい人間関係を築く特別活動 ----- 図書文化
- 特別活動の教育技術 ----- 小学館
- 学級活動指導法セミナー(中学年)子どもがもえる活動づくり ----- 明治図書

### ▶▶▶ 主な編著書・共著・監修書

- 特別活動で、日本の教育が変わる ----- 小学館
- 特別活動・キャリア教育 児童用教材「楽しい学校生活」1年～6年 ----- 文溪堂
- 平成29年度版 小学校新学習指導要領の展開 特別活動編 ----- 明治図書
- 平成29年度版 小学校新学習指導要領ポイント総整理 特別活動 ----- 東洋館
- 子どもを心育て つなぐ特別活動 -道徳的実践へのアプローチ- ----- 文溪堂
- 特別活動で子どもが変わる！～新しい評価と指導のモデル集～ ----- 小学館
- CONPACT64 教室環境づくり ----- 小学館
- 担任がしなければならない学級づくりの仕事12か月 ----- 明治図書  
 (小学校低学年・中学年・高学年編)
- 改訂対応小学校学級活動のファックス資料集 ----- 明治図書  
 (低学年・中学年・高学年編)
- 担任がしなければならない授業づくりの仕事12か月 ----- 明治図書  
 (小学校低学年・中学年・高学年編)
- 担任がしなければならない保護者対応の仕事 ----- 明治図書
- 小学校担任のための生徒指導提要実践ガイド ----- 明治図書
- クラブ活動アイデアブック1巻～5巻 (卓球・科学・サッカー・料理・バドミントン) ----- フレーベル館



子供を伸ばし、学級・学校を創る特別活動の教育力

—集団の教育力の再構築と活用—

〈講演メモ〉

# 令和4年度 第14回関東地区特別活動研究協議大会 群馬大会

## 令和4年度 群馬県キャリア教育研究大会

### 大会主題

#### 子供のよさや可能性を伸ばし、確かな資質・能力を育む特別活動

大量生産・大量消費に基づいた高度経済成長を経て豊かになった我が国は、その後バブル崩壊と平成不況により価値観が多様化し、個に応じた教育の重要性が重んじられるようになった。そして、東日本大震災と原発事故で、さらに価値観は多面化し、世界的な新型コロナウイルスの猛威とロシアによるウクライナ侵攻等、何が起こるか予測が困難な時代に突入している。このような時代を生き抜くこれからの子供たちに対し、今日の教育では、子供一人一人に、確かな学力、豊かな心、健やかな体を身に付けることが大切であり、さらにその調和を重視する「生きる力」を育むことが求められている。その中で、特別活動においては、望ましい集団活動や体験的な活動を通して、「心身の調和のとれた発達」「個性の伸長」「集団の一員としてよりよい生活や人間関係を築く」などの自主的・実践的な態度を育て、自己の生き方についての考えを深め、自己を生かす能力を養うことが求められている。

本大会では、これまでの子供のよさや可能性を大切にし、支援や評価等の研究を進めてきた今までの成果と課題等を踏まえ、これまでの考え方を受け継ぐとともに、「望ましい集団活動を通して」という、特別活動の方法原理を取り入れ、子供たちが集団活動における他との望ましい関わりができるように一層工夫していくことが大切であると考えた。また、新しい学習指導要領に3つの柱で構造的に示されている「資質・能力」について、特別活動においてもどんな力を育むのかを明確にしていく必要があり、実践研究の場面で意識的に取り上げることとした。さらに、本大会は群馬県キャリア教育研究大会との共催であることから、発表内容の一部にキャリア教育の視点から、要となる特別活動の在り方を追究していく実践を発表する。学校の教育活動全体を横断的に考えて、道徳の時間や総合的な学習の時間、他教科、小中連携等との関連なども図りながら、新学習指導要領に基づいた特別活動の在り方を探っていきたいと考えた。

以上のことから、本大会主題「子供のよさや可能性を伸ばし、確かな資質・能力を育む特別活動」を設定した。この主題に沿って、本県小学校の特別活動における一層の充実に結び付く実践的な研究を推進するとともに、群馬県キャリア教育研究大会との共催として、中学校における実践的な研究も推進してゆくこととした。

なお、具体的な研究の観点としては、「子供のよさや可能性を伸ばすこと」「育む資質・能力（どんな力をつけるか）」を明確にした次のような研究の観点が考えられた。

#### ○指導目標・指導計画の作成

従来の指導目標や計画を見直し、「子供のよさや可能性を伸ばすこと」「育む資質・能力（どんな力をつけるか）」をどの内容のどのような場面に位置づけられるかを研究すること



○活動過程の工夫

学習内容のどの単位時間でどのような「子供のよさや可能性を伸ばす活動」やどのような「育む資質・能力（どんな力をつけるか）」を明確にした活動が考えられるかを実践すること

○教材の工夫

どのような「子供のよさや可能性を伸ばす活動」を実現できる教材やどのような「育む資質・能力（どんな力をつけるか）」を明確にした活動を実現できる教材が考えられるかを工夫すること

○支援の工夫

学習活動において「子供のよさや可能性を伸ばすこと」に効果的な支援としてどのような働きかけができるかを実践すること

○評価の工夫

学習活動を通して、「子供のよさや可能性を伸ばすこと」「育む資質・能力（どんな力をつけるか）」という視点からキャリアパスポート等も取り入れた評価を研究し実践すること

○総合的な学習も含めた他教科・領域等との関連

教科横断的な視点から総合的な学習も含めた他教科・領域等と関連させて学習できる活動を研究し実践すること

○キャリア教育の要としての特別活動

生き方教育としての学習活動ととらえ、キャリアパスポート等を通して、「子供のよさや可能性を伸ばすこと」「育む資質・能力（どんな力をつけるか）」という視点から学習活動を研究し実践すること

上記以外の視点として、「小中連携、小小連携やコミュニティスクールの視点」や「小中一貫教育の視点」における特別活動など、様々な研究も考えられる。

〈分科会一覧〉

	発表時間	提案者	研究主題
第1分科会	①12:30～12:50	【学級活動（低学年）】 高崎市立吉井西小学校 柴崎 優紀 教諭	児童の自己肯定感や自己有用感を高める活動の工夫
	②12:55～13:15	【学校行事】 南牧村立南牧小学校 外所 聖貴 教諭	南牧小学校の一員としての自覚をもち、協働して南牧小文化を引き継ぐ学校行事
第2分科会	①13:30～13:50	【学級活動（中学年）】 伊勢崎市立坂東小学校 関塚 翔太 教諭	進んで考え表現し、生き生きと活動する児童の育成 ～特別活動を中心とした教科横断的な学習内容の見直しを通して～
	②13:55～14:15	【児童会活動】 前橋市立広瀬小学校 三輪 信子 教諭	互いに認め合い、主体的に活動し、よりよい学校生活を築こうとする児童の育成 ～年間指導計画の改善と合意形成に向けた話し合い活動の工夫～



	発表時間	提案者	研究主題
第3分科会	①14:30～14:50	【学級活動（高学年）】 館林市立第十小学校 久木原 悠太 教諭	「なりたい自分」を明確にし、実現に向かって行動することができる児童の育成～新しい形での協働学習と自己有用感の向上をめざして～
	②14:55～15:15	【特別活動とキャリア形成】 （キャリア教育） 太田市立藪塚本町南小学校 神澤 優子 教諭	子どものよさや可能性を伸ばし、確かな資質・能力を育む特別活動 ～10の行動目標を取り入れた学級活動を中心に～
第4分科会	①15:30～15:50	【生徒会活動（中学校）】 渋川市立古巻中学校 中林 涼 教諭	主体的に活動に取り組み、新しい未来を切り開く生徒会活動 ～スローガンを意識した1年間の活動を通して～
	②15:55～16:15	【キャリア教育】 玉村町立南中学校 菅原 颯樹 教諭	未来へ向けて自立し、夢を叶えるキャリア教育 ～目標達成シート（マンドラート）を活用して～

## 【小学校 学級活動（低学年）】

### 児童の自己肯定感や自己有用感を高める活動の工夫

高崎市立吉井西小学校 柴崎 優紀

#### 1 実践内容

##### (1) 活動のねらいと児童の実態

###### ○活動のねらい

仲間と関わり合いながら目標を達成していく活動の過程を工夫することが、自己肯定感や自己有用感を高めるために有効であることを、実践をとおして明らかにする。

###### ○児童の実態

2学年児童は、男女が仲良く遊べ、落ち着いて活動が出来る児童が多いものの、狭い交友関係の中で過ごし、周りを広く見られない児童が多い。中には承認欲求の高い児童や、過剰な干渉によりトラブルを起こす児童もおり、学級集団を一つにまとめる援助が必要である。C&S質問紙による調査では、自己肯定感が全国平均値をやや下回る児童が25%、学級の雰囲気認知がやや低い児童が15%おり、意識的な援助・指導が望まれるとされる領域にある児童が30%ほどである。

##### (2) 研究主題にせまる手立て（指導方針）

自己肯定感や自己有用感を高めるために以下の手立てをとる。なお、これは小学校低学年段階におけるキャリア教育で求められる、「自分の好きなこと、得意なこと、出来ることを増やし、様々な活動への興味・関心を高めながら意欲と自信をもって活動できるようにする」ことを意識した活動である。  
<事前>学級や自己の課題を明確にし、事後活動までの見通しをもつことで、解決すべき問題に対して、全員で考えていく意識をもつ。

<本時>学級全体の目標達成に向けて、児童が役割を明確にしたり、目標をもったりすることで、主体的に目標を達成しようとする意識を高める。

<事後>友だちの目標を知り、その達成に向かって児童同士が励ましの言葉や共感する言葉を掛け合う場を設けることで、関わってもらえているという安心感や承認欲求を補償し、目標の達成に向かう意識を継続できるようにする。

##### (3) 活動の実際

###### ① 実践事例A 「うごくおもちゃ 1年生を招待しよう！」(11月) 学級活動(1)ウ

2年生が生活科で作ったおもちゃ遊びを、1年生に紹介する行事の中で行った取組。司会や遊び方の紹介、1年生を遊ばせる活動等を、2年児童が全て取り仕切った。児童が互いに支え合いながら行事を成功させ、達成感を味わう中で自己肯定感や自己有用感を高めることをねらいとした。

###### <事前>

- 「1年生を喜ばせよう、楽しんでもらおう」という課題に対し、一人一人が役割をもってみんなで力を合わせて活動していくことを確認した。

###### <本時>

- どんな役割が必要か考え、係分担を決めた。1年生を呼びに行く係や全体の進行をする係、スタンプカードを作る係、メダルを作り渡す係、遊び方を教える係等が必要な係として挙げた。
- 役割の決め方を考え、原則希望を生かすこと、希望者が多数いた場合はオーディションで選ぶこと等を決めた。また、選ばれなかった場合も、他の係になることを嫌がらず、みんなで1年生を喜ばせられるように頑張る、という確認ができた。
- 友だちの係とその仕事内容を知り、自分の所属する係のメンバー同士で声を掛け合って作業を進めたり、手伝ったり、出来映えや頑張りを賞賛したりしながら目標の達成を目指すこととなった。

###### <事後>

- 練習を教師が支援し、自信をもって1年生と接することが出来るようにするとともに、2年児童



相互の声掛けにより改善したり上達を喜んだりした。

○振り返りの中で、友だちの頑張りや実践の中でのよさの認め合いを行い、成功を喜び合った。

## ② 実践事例B 「〇〇一番になろう」(2月) 学級活動(3)ア

一人一人が、何かしらの一番になってこの学年を締めくくろうという取組。最高のクラスづくりを目指して、一人一人がクラスで一番になりたいことに向かって支え合いながら実践を継続し、ともに達成感を味わう中で自己肯定感、自己有用感を高めることをねらいとした。

<事前>

○「クラス全員が一番になれるようにする」という課題に対し、一人一人が、「私のなりたい一番」と「一番になるために続けたいこと」を明確にして、全員が達成できるように取り組んでいくことを確認した。

<本時>

- どうしたら課題を達成できるかを考え、小グループを編成し、グループのメンバーを中心に、互いに声を掛け合っていくことを決めた。
- グループのメンバーが、何の一番を目指し、どのような言動を続けたいのかを共有した。
- 友だちを一番にするためにしてあげたいことを考え、メンバーが取り組む姿を認めたり、褒めたり、実践を促したりする声掛けをするという目標を作った。

<事後>

- 2週間後にグループの達成状況を振り返り、目標の再確認をしたり改善点を考えたりした。
- 振り返りの中で、声を掛けてもらった時の気持ちや感謝をメンバーに伝えたり、一番になれたことや頑張れたことを、互いに認め、喜びを共有したりした。
- クラス全体で頑張れたことやよかったことを共有した。



「うごくおもちゃ」で活躍する2年生

図1 実践事例A

〇〇一番になろう!

私のなりたい一番  
友だちを一番にするためにしてあげたいこと  
自分が頑張ったことや、よくなったこと

一番になるために続けたいこと  
友だちから声を掛けてもらって、うれしかったこと  
みんなでやってみて気づいたこと どんないいことがあったか

ワークシート例

図2 実践事例B

## 2 実践の成果と課題 (成果○ 課題●)

- 個々の役割や目標を明確にすることで、具体的な行動に移せる児童が増えた。また、互いの目標を知り、支える意識をもつことで、友だちの活動に関心をもち積極的に関わろうとする児童が増えた。
- 頑張る姿を見合うことで、励ましや承認といった肯定的な声掛けが増えた。それにより取組を継続できた児童も多く、クラス全体で目標を達成しようとするよい学級風土づくりにつながった。
- 友だちへの肯定的な声掛けに対して感謝を表す言葉や態度が返ってくることで、自己有用感の高まりが見られた。また、周りが自分を見てくれている、褒めてくれている、目標を達成できた、という喜びを味わい、自己存在感や自己肯定感を高めることにつながった。
- 周りの子が何に向かって何を頑張ろうとしているのかを理解させたり、声の掛け方の練習や声を掛け合うために意図的な場を設定したりするなど、より深く関わらせるための工夫をしていきたい。
- コロナ禍で行事の実施がままならず、達成感が得られにくい中で、自己肯定感や自己有用感を高める取組を組織的、計画的に行っていきたい。

## 【小学校 学校行事】

「南牧小学校の一員としての自覚をもち、協働して南牧小文化を引き継ぐ学校行事」

南牧村立南牧小学校 外所 聖貴

### 1. 実践内容

#### (1) 活動のねらいと児童の実態

##### ① 活動のねらい

- ・南牧小学校の一員としての自覚をもち、学校や地域の生活をよりよくするための課題を見だし、解決するために、話し合って意思決定し、主体的に活動できるようにする。
- ・自分や他者のよさを認め合い、課題解決のために、共に協力し合う人間関係を築く態度を育てる。

##### ② 児童の実態

- ・児童数が少ない（全校児童16名）ため他者との関わり合いが非常に少なく、他者とコミュニケーションをとることを苦手とする児童が多い。
- ・学級の児童数は1名～最大6名で、学級の中で協力する体験が乏しい。
- ・学級では集団にならず、集団への所属感、連帯感をもちにくい。
- ・毎年教師の入れ替わりが多く、学校行事の引き継ぎや指導経験の積み上げ、地域のことを十分に伝えることが難しく、児童にとっての体験の質の向上が難しい。
- ・児童数が年々減少し、児童間の学校行事の引き継ぎが難しくなっている。

#### (2) 研究主題にせまる手立て

手立て① 南牧小学校の一員として南牧小文化を引き継ぐという目的意識をもち、学校や地域の生活をよりよくするための課題解決のための話し合いや主体的に取り組める活動の工夫

手立て② 異年齢の他者と協働することで、自他のよさ、協力することのよさに気付くことのできる活動の工夫

#### (3) 活動の実際

活動名「みんなの力で南牧小文化を引き継いでいこうプロジェクト～黒滝山巣箱掛け～」

南牧小文化とは

- ①南牧小で引き継がれてきた学校行事を、教師が児童に教えるのではなく、高学年児童が、低学年・中学年児童に直接教えること
- ②地域に根差した南牧小ならではの特色ある学校行事（黒滝山巣箱掛け）

<実践の流れ>

##### ① 事前の活動

- ・学級活動①（高学年）手立て①：南牧小学校の課題、地域の思い、プロジェクト達成のために
- ・学級活動②（高学年）手立て①：プロジェクト班（本部班、クイズ班、巣箱作り班）活動
- ・図工（全校児童）手立て①、②：プロジェクト各班からの発表、ペアで巣箱作り

##### ② 本時の活動

- ・学校行事（全校児童）「黒滝山巣箱掛け」手立て①、②：プロジェクト各班が司会進行

##### ③ 事後の活動

- ・学級活動③（高学年）手立て①、②：プロジェクトの振り返り



### ①プロジェクト達成のためにできることは



南牧小の課題、地域の人の思いから、学校や地域の生活をよりよくするために、黒滝山巣箱掛けを通して、南牧小文化を引き継いでいくにはどうしたらよいか考える。

### 全校図工で巣箱掛けの歴史、作り方を引き継ぐ



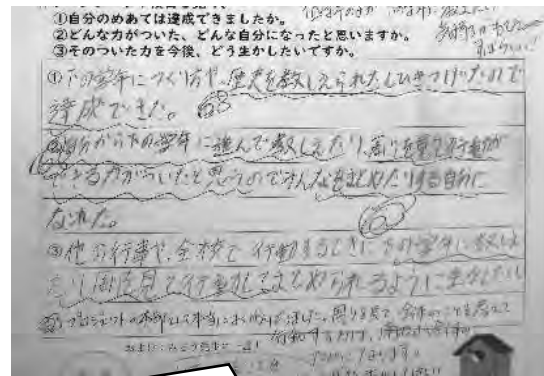
高学年が、巣箱掛けの意義や53年間続いている歴史を教える。高学年が下級生とペアになり巣箱の作り方を直接教える。

### ②「黒滝山巣箱掛け」児童が司会進行



高学年児童が各班で分担し、司会進行をしながら、低・中学年を「黒滝山巣箱掛け」に連れて行く。巣箱掛けは、低・中学年に教えながら、引き継ぐ。

### ③プロジェクトが達成できたか振り返る



低・中学年の振り返りを共有し、プロジェクト全体をもう一度振り返る。プロジェクトが達成できたかどうか、自分にどんな力がついて、それをどう生かしたいかを考える。

## 2. 実践の成果と課題

### (1) 成果

- ・南牧小学校の抱える課題から、南牧小学校の一員として学校や地域の生活をよりよくするために、黒滝山巣箱掛けを通して何ができるかを話し合っって意思決定ができた。
- ・黒滝山巣箱掛けの歴史や歌、地域の人々の思いを知ることで、黒滝山巣箱掛けの意義を理解している高学年が、下の学年に引き継いでいかなければならないという意識で主体的に活動できた。
- ・事前の学習で、高学年全員でプロジェクト達成のためにできることを決め、各自で自分の身に付けたい力、低・中学年になってほしい姿を考えた。事後の学習では、低・中学年の振り返りを共有し、プロジェクト全体を振り返ることで実感をもって、自他のよさを認め、協力することのよさに気づき、よりよい人間関係を築こうとすることができた。
- ・他学年と協働することで低・中学年も、協力することのよさに気づき、来年は自分が南牧小文化を引き継ぎ、主体的に活動しようという思いをもつことができた。

### (2) 課題

- ・課題解決のための話し合いでは、少人数ゆえ、多様な考えや感じ方の意見に触れることが少なく、葛藤や対立などがなく合意形成を図ることができるため、さらなる工夫が必要だと感じた。

## 【小学校 学級活動（中学年）】

進んで考え表現し、生き生きと活動する児童の育成  
～特別活動を中心とした教科横断的な学習内容の見直しを通して～

伊勢崎市立坂東小学校 関塚 翔太

### 1 実践内容

#### (1) 活動のねらいと児童の実態

高学年になると委員会活動や縦割り活動など低学年の手本となり活動する場面が多くなっていく。そのため、まずは5年生になる前に学級の課題や議題に対して、まず自分の考えを持ち、友達との意見の交流を深める中で全体の解決方法を導き出していくということが必要になってくる。学級活動や教科の時間を通して深い学びにつなげていきたいと考える。

本学級の児童は、司会や書記の役割に対し意欲的であるが、1時間の中で終わるように進めることは難しい。また、友達の意見を聞いて、自分と同じ、違うを伝えて自分の考えを発見することはできる。しかし、理由まで伝えられる児童は少ないため、みんなの中で自分の考えをしっかりと発言するという自己表現までできるようにしたい。

#### (2) 研究主題にせまる手立て

- ・出し合った考えに対して、よいと思う考えを発表し、なぜよいと思うのか理由を伝える。
- ・よい考えと発表された考えの上に赤で印をつけて整理する。(黒板・書記)(言葉・司会者)
- ・日常的に、各教科で自分の考えと友達の考えを比べるように授業を展開していく。(常時活動)

#### (3) 活動の実際

- ・自分の意見と理由を事前に考え、短冊に書いておく。
- ・意見を言った後その短冊を黒板に掲示しながら記録係が整理していく。
- ・意見を比べ合う場面で、司会・記録が集まり、この後の進め方を相談する。
- ・このとき、他の児童は、どの考えがよいか近くの友達と意見を交換し、自分の考えをまとめる。この時間を確保することで、理由を添えて自分の意見を発言することにつながる。
- ・国語・算数・道徳などで、友達と自分の意見を比べ、よりよい意見を導き出す時間を設定し日常的に取り組んできた。

##### ①年間指導計画の改善

- ・各学年の年間指導計画の中で、学級活動の話合いと関連できる教科や単元を確認し実践を行った。

##### ②研修での取組

- ・「出し合う」、「比べ合う」、「まとめる」の流れを全学年同一歩調で行った。「出し合う」では、事前にワークシートを用いて自分の意見をまとめておき、授業ではグループで話合いから、全体で発表という流れであった。「比べ合う」では、話形を用いて理由を伝えるように行った。「まとめる」では、比べ合うで出た意見を基に、条件と照らし合わせて条件に合うものを全体で話し合い、まとめた。
- ・研修の中で、低学年は「出し合う」、中学年は「比べ合う」、高学年は「まとめる」に焦点をあて行った。「比べ合う」では、出た意見のよいところなど発言する際に「～の意見に賛成です。なぜなら～だからです。」などの話形を決め、なぜよかったのか理由を伝えることで、まとめにつなげられるよ

うにしてきた。

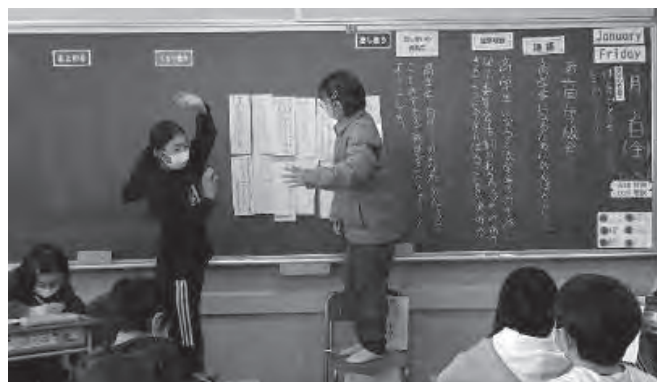
## 2、実践の成果と課題

### (1) 成果

- 事前に話し合いカード(①)を活用し、議題に対して『提案理由』や『話し合いのめあて』をクラス全体で考える時間を設けた。(②)その後、自分の意見と理由を考える時間を設定し、短冊に書いて話し合いの準備をしておくことで、意欲的に発言できるようになってきている。
- 話し合いの意見を出し合う場面では、意見と理由を発表した後、その短冊を記録者に渡し、黒板に整理しながら掲示していくことで、時間の短縮になり、比べ合う時間を十分に取れるようになった。
- 比べ合う時間に移る前に、自分の立場で考える時間を確保することで、司会者側は、進め方の確認、意見を発言する側は、周りの児童と交流することで自分の考えをまとめることができた。また、比べ合う意見を発言するとき理由を添えて自分の考えを発表することができた。



① 話し合いカード



② クラス全体の意見をまとめる様子

### (2) 課題

- 「まとめる」場面では、司会者が意見の多いものに決定する形で終わることが多いので、最後に条件を確認し、意見のよさを生かす方法で合意形成が図れるように、教師の声かけや司会への支援を行うことも必要である。



司会団の話し合いの様子



クラスの中でよりよい意見を考え、話し合っている様子



## 【小学校 児童会活動】

互いに認め合い、主体的に活動し、よりよい学校生活を築こうとする児童の育成  
～年間指導計画の改善と合意形成に向けた話し合い活動の工夫～

前橋市立広瀬小学校 三輪 信子

### 1 実践内容

#### (1) 活動のねらいと児童の実態

児童会活動は、学校全体の生活を共に楽しく豊かにするために学校の全児童をもって組織する異年齢集団の児童会による自発的、自治的な活動である。学習指導要領第6章の第1の「目標」に掲げる資質・能力を育成するために、児童会活動では、自治的な集団活動を通して身に付けたことを生かして、多様な他者と互いのよさを生かして協働し、よりよい学校生活をつくろうとする態度を養いたい。

本校の児童数は151人、全学年単学級の小規模校である。明るく素直で、思いやりのある児童が多く、指示されたことや、やるべきことに進んで取り組める。一方で、通学区域が市内で最も狭いため登校班の必要がなく、地域行事も行われていない。そのため、日常的に上級生が下級生の面倒を見たり、異年齢集団で活動したりする機会が少なく、人間関係や相互の評価等は固定化しやすい。そこで、異年齢集団による交流を重視するとともに、協働すること、他者の役に立つ喜びを得られる児童会活動を充実させることで、学校生活の充実・向上を図ることができると考えた。

#### (2) 研究主題にせまる手立て

よりよい学校生活を築くために、児童会活動は大きな役割を担っている。児童会活動において、1年生から6年生までの全児童が発達段階に応じ、自主的・実践的な活動ができるように既存の活動を活かし、児童にとって必要感のある議題の設定や題材の精選を行い、年間指導計画の改善を図った。さらに、友達の意見のよさを認めたり、自分と友達の意見の折り合いをつけたりして、よりよい解決方法を考えることができるように合意形成に向けた話し合い活動の工夫をすることにより、互いに認め合い、主体的に活動し、よりよい学校生活を築こうとする児童の育成を目指した。

#### (3) 活動の実際

##### ① 年間指導計画の改善

- 学級や学校の実態や児童の発達段階などを考慮するとともに、異年齢集団による交流を重視し、協働すること、他者の役に立つ喜びを得られる活動を充実するようにした。
- 児童による自主的・実践的な活動を促進させるために、学校生活をよりよくするための「生活目標」と全校で行う既存の「あいさつ運動」「縦割り遊び」「クリーン作戦」を各学年の共通の議題として位置付けた。



あいさつ運動



縦割り遊び



クリーン作戦

## ② 合意形成に向けた話し合い活動の工夫

### ○話し合いの効率化と時間確保の工夫

- ・話し合いの進め方マニュアルや話し合いカードを作成して、進んで話し合いに参加できるようにした。
- ・意思表示マグネットや思考ツール、ホワイトボード、短冊を活用し全体で効率的に話し合いができるようにした。
- ・タブレットの学習支援ソフトを活用して、意見の集約・比較を行うことにより、「出し合う」「比べ合う」過程の効率化を図った。
- ・校時表・時間割の工夫を図り、全学級の学級活動の時間を木曜日の5校時目に設定し、異年齢集団による活動時間を確保した。



意思表示マグネットの活用

## ③ その他の工夫

### ○特別活動の充実につながる掲示の工夫

- ・全学年の児童が日常的に活動を意識できるよう、児童玄関ホールに特別活動コーナーを設置し、実践に向けての情報を共有し、児童の自主的な活動を促した。
- ・活動後に写真・振り返りカードを掲示することで、異年齢集団で協働することが学校をよくすることにつながっていること、自らも活動に関わり役に立った喜びを実感できるようにした。



生活目標コーナー



縦割り活動コーナー



縦割り活動のお知らせを確認する児童

## 2 実践の成果と課題

### (1) 成果

- 各学年の年間指導計画に児童会活動（あいさつ運動・縦割り遊び・クリーン作戦）の話し合いを位置付けたことにより、1年生から児童会活動に対する意識付けができ、より充実した児童会活動となった。
- 話し合いの効率化と時間確保の工夫を行ったことにより、話し合い活動が活発に行われ、学級の話し合いだけでなく、児童会活動の話し合い活動でも生かされるようになった。

### (2) 課題

- 児童にさらに主体的な活動を促すために、児童の活動の振り返りで出された成果や課題をもとに年間指導計画の改善を図っていく必要がある。
- 児童自ら学校生活をよりよくしようとするための議題の提案は少ないので、必要感や切実感のある議題を見つける力を体験活動等を通して育てていく必要がある。

## 【小学校 学級活動（高学年）】

「なりたい自分」を明確にし、実現に向かって行動することができる児童の育成  
～新しい形での協働学習と自己有用感の向上をめざして～

館林市立第十小学校 久木原 悠太

### 1. 実践内容

#### (1)活動のねらいと児童の実態

本校特別活動では、自分の考えをもつことや対話の充実、ICT の有効活用を目指し、実践を重ねてきた。本校には自分のよさや特性に気付かなかつたり、将来の自分を思い描けていなかったりする児童が多い。また、本校には外国籍の児童が多く在籍しており、日本語が未習熟な状況下で学校生活を送っている。また、自分の考えをもつていても発言したり積極的に意見交流をしたりすることが難しい児童もいる。そこで、新しい形での協働学習の形成や特別活動を通して「なりたい自分」を明確にし実現に向かって努力すること、自己を見つめ直し、よさや長所を自覚し「自己有用感」を高めることができるようにしていくことを本校の特別活動・キャリア教育の要とした。

#### (2)研究主題にせまる手立て

- ・各学級で話し合い活動が充実するよう、学年ブロックごとの話し合い「十小話し合いマニュアル」を作成し、周知する。  
また、ICT の活用を通じた協働学習の充実を図る。
- ・活動の一つ一つに対して目標を立て、活動ごとに「振り返り」を実施することで、めざす姿を明確にし、その実現に向かって努力する経験を積ませる。
- ・夢や目標に向かって具体的に今やるべきことを考えさせる機会を設けることで、将来の自分を思い描けるようにする。
- ・たてわり活動やあいさつ運動、委員会活動やクラブ活動など、学校のリーダーとして活躍する場面を多く経験することで自分に自信をもち、自己有用感を高めさせる。

※たてわり活動の班長は輪番制で全員が経験するようにする。

#### (3)活動の実際

##### ①学校全体での実践

- ・ありがとうの花運動
- ・行事頑張りカードの活用
- ・たてわり活動の充実
- ・夢カードの有効活用
- ・こども宇宙プロジェクトへの参加

##### ②高学年「学級活動」

###### i 5年「夢に向かって」

###### 【ねらい】

1人1台端末を活用した意見の共有を通して、自分自身のよさや今までの行動の改善点に気づき、今後の行動について見通しをもち、それを自主的に実践しようとする態度を養う。

###### 【授業の流れ】

ア、夢に関する本時の課題をつかむ(Google Forms を活用しアンケートを実施)

イ、今までの自分を振り返る

ウ、班で「夢の実現」へのアドバイスを送り合う(ロイロノート共有ノート機能を活用)

エ、個人目標を決める

###### 【本授業の成果と課題】

○ロイロノートの共有ノートを活用することでグループの意見がリアルタイムで共有できた。

→手本がすぐに見られるので、全ての児童が手を止めることなく意見を書くことができた。

○1人1台端末を活用した言語活動を中心に授業が進められていた。



→どこでもできる（離れていても）様々な児童の特性に対応できる。（緘黙・言語）

○アドバイスを集めたことにより夢の実現に向けた行動目標を具体的に設定することができた。

△「対話」が全て1人1台端末で行われていた。

→実際に声を出して伝える場面も必要。（よいところは、直接伝えられた方がうれしい）

△全員が前を向いたまま活動していた。

→グループごとに向き合って座り、グループ活動をしているという意識をもたせた方がよい。



（板書の様子）



（シンキングツールを活用している画面とその時の児童の様子）



## ii 6年「小学校生活の締めくくり ～残りの学校生活の目標を立てよう～」

### 【ねらい】

マンダラートの活用を通して残りの小学校生活の目標を具体的に定め、目標に向かって努力していく態度を養う。

### 【授業の流れ】

ア、自分たちのこれまでの小学校生活を振り返る

イ、これからの半年間の見通しをもつ

ウ、卒業時になりたい姿を、マンダラートを活用して明確にする

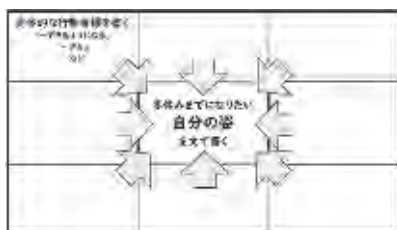
エ、ジャムボードを活用し、意見交流を行い、やりたい姿をさらに具体的にする

### 【本授業の成果と課題】

○マンダラートを活用したことにより、目標に対してやるべきことが明確になった。

○ジャムボードで意見交流を行ったことで、自分では気付いていないよさや特徴に気づき、目標設定に生かした。

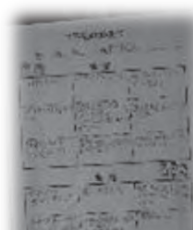
△半年という長い期間の目標であるため、途中での振り返りと目標のブラッシュアップが必要であった。



（マンダラートの説明）



（ジャムボードを活用する画面）



（児童のワークシートと画面を見ながら記入する様子）

## 2. 実践の成果と課題

### （1）成果

- ・ICTを有効的に活用した協働学習を実施したことで、様々な特性がある児童でも意見交流がしやすくなった。
- ・リーダーとして活動する経験を通して、自信をもって様々な活動に取り組むことができるようになった。（自分に自信が付き、自己有用感の向上につながった。）

### （2）課題

- ・「振り返りをして次に生かす」という過程がうまく機能しなかった。  
→前回の反省や課題を生かした目標設定ができるような支援をしていく必要がある。
- ・高学年のみ実践が進んでいた。（低・中学年をもっと巻き込んだ活動をすることで学校全体の活性化につながる）  
→学校の問題点や課題を高学年が見付け、それを解決していくような手立てを話し合いで考える。それを中学年、低学年へと順を追って発達段階に応じた話し合いの形式に修正するなど、学校全体がよりよくなっていくような話し合いシステムを構築していきたい。

○ 研究主題

子どものよさや可能性を伸ばし、確かな資質・能力を育む特別活動  
～10の行動目標を取り入れた学級活動を中心に～

太田市立藪塚本町南小学校 神澤 優子

1 実践内容

(1) 活動のねらいと児童の実態

本学級は、6学年である。6年生は、学校の最高学年としてリーダーシップを発揮することが期待されている。また、個人としては向上心を持ち、自らを高めようとする態度とそのための行動力が身につけていることが求められる。

こうしたゴールを見据えたとき、学級集団の力を生かしつつ、個々の児童が自らを高めたいという気持ちを行動に移せる取組を行いたいと考えた。

本学級の実態は、児童は落ち着いていてクラスの雰囲気も穏やかである。学習課題に粘り強く取り組むことができ、真面目である。一方、周囲の反応を気にして、自分の行動を制限したり進んで行動したりすることができない様子が見られる。

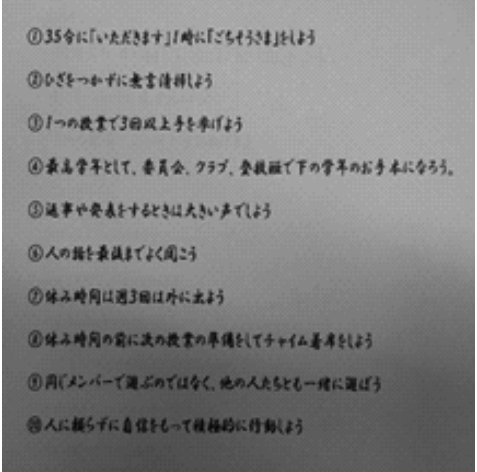
このような学級集団の姿から、育み高める力を次のように考えた。

- ・友達と力を合わせて働くことの大切さに気づき、協調しようとする態度を育てる。
- ・自己の役割を見出し、そのための工夫を惜しまずに実行できるようになる。
- ・言動に自信と責任を持って主体的に行動することができるようになる。

(2) 研究主題にせまる手立て

研究主題である「子どものよさや可能性を伸ばすこと」・「育む資質・能力（どんな力をつけるか）」にせまるために、最高学年としての意欲とリーダーとしての自覚を高める学級目標作りから行った。次に、学級目標達成のための具体目標として、「10の行動目標」を設定し、その行動目標がどのくらい達成できたかを子どもたちに毎月振り返らせ、評価をさせた。その際、目標達成のために「自分は何をしたのか」・「これから何ができるのか」の2点について重点的に考えさせ、自分の活動を見直すことにより、自己の役割を自覚して協働することの大切さを知ったり役割を果たすために必要なことを主体的に考えたりすることができるようになることを目指した。

「10の行動目標」

- 
- ①35分には「いただきま」1時に「ごちそうま」をしよう
  - ②ひとことかざに発言準備しよう
  - ③1つの授業で3回以上手を挙げてみよう
  - ④最高学年として、委員会、クラブ、全校組で下の学年のお手本になろう。
  - ⑤通事や発表をするときは大きい声でしよう
  - ⑥人の話を最後までよく聞こう
  - ⑦休み時間は週3回は外に出よう
  - ⑧休み時間の前に次の授業の準備をしてチャイムまでしよう
  - ⑨同じメンバーで選ぶのではなく、他の人たちとも一緒に選ぼう
  - ⑩人に頼らずに自信をもって積極的に行動しよう

### (3) 活動の実際

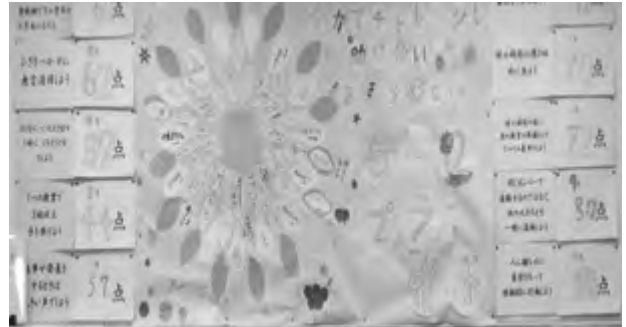
- ・学級目標、10の行動目標は児童がすぐに見られる場所に掲示し、意欲を高められるようにした。
- ・学級会を行い、達成率が低い目標について達成率を伸ばすために自分は何ができるかを具体的に考えさせた。
- ・目標達成のために児童から出されたアイデア（クラスに呼びかけのポスターを掲示、クラスの役割を決めるなど）を積極的に取り入れるようにした。

#### 〈実践の流れ〉

4月：学級目標決め

5月：10の行動目標作り

5月～3月：実践・振り返り



学級目標を中心に、行動目標と達成度を掲示

## 2 実践の成果と課題

### (1) 成果

- クラスの中で問題が起こったときに、児童が中心となって考え、積極的に行動する姿が見られるようになった。
- 行動目標や達成率を見やすい場所に掲示することで、自分たちが足りないところを考え、進んで行動しようという意欲につながった。
- 自分のよさに気づく児童が増え、気づいたことがあると進んで行動する様子が見られるようになった。

### (2) 課題

- 意欲の継続のための手立てを考えておく必要がある。
- 達成できたか、できなかったかの評価だけで終わってしまうのではなく、「そのために自分は何をしたか」、「自分は何ができたのか」などをしっかりと振り返ることが大切だと感じた。



## 主体的に活動に取り組み、新しい未来を切り開く生徒会活動

### ～スローガンを意識した1年間の活動を通して～

渋川市古巻中学校 中林 涼

#### 1 実践内容

##### (1) 活動のねらいと生徒の実態

令和2年度より、新型コロナウイルス感染症の影響下で例年行われていた学校行事は中止・縮小を余儀なくされた。その結果、本校では以下のような生徒の姿を見る機会が減少した。

- ・1つの課題に対して、学級や学年、学校全体で取り組み、解決を目指そうとする姿。
- ・与えられた役割を一人一人が自覚し、責任をもって最後までやり遂げようとする姿。
- ・自分たちがすべきことを見つけ、計画を立て運営し、実行していく姿。
- ・困難な状況乗り越え、明るく前向きに周囲を導いていくリーダーとしての姿。

そこで、本校は生徒会活動を通して、生徒が自ら困難な時代を乗り越え、新しい時代を創り出していく自覚を持たせ、将来の人間関係形成・社会形成能力の伸長を図りたいと考え、本実践を行った。

##### (2) 研究主題にせまる手立て

「新しい波に乗り、前向きに取り組む特別活動・生徒会活動」

生徒会本部の活動に一貫性を持たせるため、スローガン「進 Ride New Wave」を立案した。コロナ禍という困難な状況にあっても、明るい未来に向かって、新しい波に乗り、生徒全員で前向きに突き進んでいこうという気持ちを込め、1年間意識して活動することをねらいとした。また選挙時に掲げた「公約の実現」を達成することを意識させ、自分自身の目標の達成の実現を目指した。具体的には本部役員決定後、それぞれの公約を本校の現状やニーズに合わせ、活動計画書を作成し、学校行事や本部役員独自の活動につなげた。

例： 「保護者や地域の方々にも生徒会と部活動について理解を深めたい。」

→古巻中学校ホームページに全部活動へのインタビューの記事を掲載。(実践例①)

「全校生徒による共同制作を作成したい。」

→コロナ禍の困難を乗り越えるメッセージを込めた作品を生徒全員で作成、生徒総会で発表し、体育館に掲示。(実践例②)

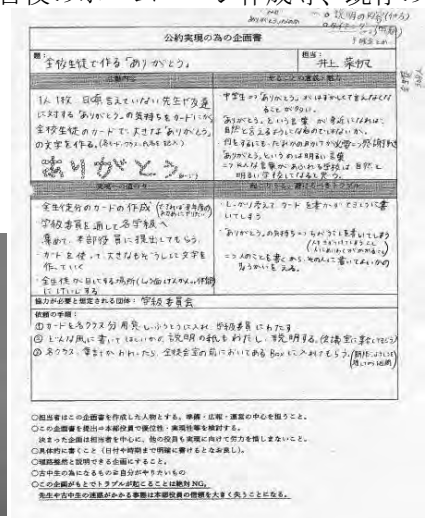
##### (3) 活動の実際

＜工夫した点＞

- ・活動を行うにあたって、担当者が「活動計画書」を作成し、その詳細を本部役員全員で協議し、主体的に計画を立て活動に取り組むことができるようにした。
- ・全校生徒が一堂に会する活動を制限されていたので、ZOOMを用いたリモート活動を積極的に行った。その際に必要なものや手立て、配慮を本部役員や行事の実行委員たちに具体的に挙げさせた。
- ・従来の活動に加え、専門委員会や部活動と協力して、生徒集会や自校のホームページ作成等、既存の考えにとらわれない活動も実行させた。

＜実践活動＞

- 10月：「活動計画書」作成開始 (画像右)
- 12月：技術員・図書館司書へのインタビュー
  - 1月：部活動インタビュー
  - 2月：新入学生徒説明会
  - 3月：予餞会
  - 4月：対面式
  - 5月：生徒総会 JRC 登録式
  - 6月：目安箱設置 (画像左)
  - 7月：郡市総体結団式
- 11月：桑海祭 (文化祭)



### <実践例① 部活動インタビュー>



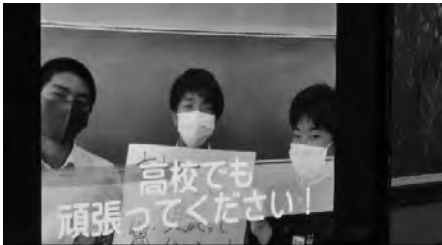
「コロナ禍の今、部活動での努力や意気込みをたくさんの人に知ってもらいたい」という気持ちからスタートした。自分たちで担当を決め、各部活動の都合も確認しながら日程を組み、実行した。

### <実践例② 生徒総会・共同制作「みんなでのりきろう」>



協議議案である「明るい未来に進み続けるために 今 できること」に沿い、各クラスの学級委員を中心に、全生徒で希望と願いを込めて作成し、体育館に掲示した。

### <実践例③ ICTの積極的活用>



3月：予餞会のビデオレター  
3年生への感謝と激励を伝えた。



4月：対面式のZOOM放送  
委員長あいさつは生配信、部活動紹介はビデオ放送など、方法を使い分けた。



11月：桑海祭のYouTube配信  
体育館で行われたスピーチやダンスを教室で視聴すると同時にYouTubeでの生配信を行った。

## 2 実践の成果と課題

### (1) 成果

- 生徒自身が企画・運営に主体的に取り組んだことで、様々な課題を発見・分析し、適切な計画を立て解決する力を育むことができた。
- 本部役員だけでなく、専門委員会や部活動、地域の方々と協働しながら活動に携わったことで、今後の社会を積極的に形成していく力を高めることができた。
- 従来の学校行事を時代に合った形を見つけていく段階で、多様な生き方に関する様々な情報を適切に取捨選択しながら、将来のキャリアを形成していく力を高めることができた。
- 生徒総会と桑海祭（文化祭）の取組が新聞記事になったことにより、地域や保護者に活動を知らせることができ、生徒の自信につなげることができた。

### (2) 課題

- 活動終了後の振り返り活動が十分でなく、その時の反省事項を次活動で生かすことができなかった。
- 生徒の意見を聞く目安箱を設置したが、意見を回収しきれなかった。

## 未来へ向けて自立し、夢を叶えるキャリア教育 ～目標達成シート（マンダラート）を活用して～

玉村町立南中学校 菅原 颯樹

### 1 実践内容

#### (1) 活動のねらいと生徒の実態

生徒の実態として、

- ・自分の「将来の姿」や「夢」を考えたことがある生徒は多い。
- ・自分の「夢」を持っていない生徒が多い。
- ・自分の「夢」を持ってはいるが、そのために何が必要か、どういう進路をとればいいのか分からない生徒も多数存在する。また、「夢」をかなえるために今現在努力しているという生徒も多くはない。といったことがあげられる。

以上のような実態から、自分を見つめ「将来の姿」や「夢」について考え、明確にしていくこと、そして、その夢に向かって今すべきことは何かを考え、未来と今を結びつけていくことが大切だと考えた。そこで、総合的な学習の時間に「生き方総合」と題して自己実現に向けて、自分の長所や個性に気づき、その力を発揮し、実現に向けて探究する力を育成するために、本実践を行った。

#### (2) 研究主題にせまる手立て

自己実現を図るために、キャリア教育は大きな役割を担っている。生徒が自己実現を図るために必要な資質・能力を身に付け、そしてそのために歩むべき進路について考えることができるような指導を発達の段階に応じて総合的に行っていくことが必要である。そのため、「生き方総合」として職業調べや高校調べなどとマンダラートを結びつけ、「夢」をかなえるために「何ができるのか」を考え、具体的に行動に落とし込んでいくことをねらいとした。

#### (3) 活動の実際

〈工夫した点〉

- ・マンダラートという活動がどのようなものであるか理解させるために、大谷翔平選手(現ロサンゼルス・エンゼルス)が実際に高校時代(岩手・花巻東高校)にたてた、マンダラートを参考にした。
- ・データ化することによって、過去の自分のマンダラートとの比較ができるようにした。

〈実践の流れ〉 探究課題を設定し、学年が上がるごとに修正しながら追究していく活動

	1年生	2年生	3年生
1学期	マンダラート		
2学期	生き方講話	職場体験	進路決定に向けて・
3学期	職業調べ・プレゼン	進路調べ・プレゼン	プレゼン
① 完成したマンダラートをもとに相互交流し、自分なりの探究課題を設定する。 ② 探究課題と体験活動を結び付けながら追究し、学習の成果をプレゼンテーションとしてまとめる。			



大谷翔平が花巻東高校1年時に立てた目標達成表

体のケア	サブメントをのむ	FSQ 90kg	インステップ改善	体幹強化	軸をぶらさない	角度をつける	上からボールをたく	リストの強化
柔軟性	体づくり	RSQ 130kg	リリースポイントの安定	コントロール	不安をなくす	力まない	キレ	下半身主導
スタミナ	可動域	食事夜7杯朝3杯	下肢の強化	体を開かない	メンタルコントロールをする	ボールを前でリリース	回転数アップ	可動域
はっきりとした目標、目的をもつ	一言一重しない	頭は冷静に心は熱く	体づくり	コントロール	キレ	軸でまわる	下肢の強化	体重増加
ピンチに強い	メンタル	蒸気気に誘われない	メンタル	ドラ1 8球団	スピード 160km/h	体幹強化	スピード 160km/h	肩周りの強化
波をつくらぬ	勝利への執念	仲間を思いやる心	人間性	運	変化球	可動域	ライナーキャッチボール	ピッチングを増やす
感性	愛される人間	計画性	あいさつ	ゴミ拾い	部屋そうじ	カウントボールを増やす	フォーク完成	スライダーのキレ
思いやり	人間性	感謝	道具を大切に使う	運	審判さんへの態度	遅く落差のあるカーブ	変化球	左打者への決め球
礼儀	信頼される人間	継続力	プラス思考	応援される人間になる	本を読む	ストレートと同じフォームで投げる	ストライクからボールに投げるコントロール	奥行きをイメージ

大谷翔平選手のマンダラチャート



実際に生徒が作ったマンダラートをタブレットで共有し、意識させる。

(注)FSQ、RSQは筋力用のマシン (出所)スポーツニッポン

好きな教科ばかりではなく苦手な教科も努力をする。	苦手な教科を避けて勉強をする。	以前のテストよりも必ず良い点を取る。	練習のサーブをぶらさないで毎回入れる。	スバイクで今よりもっといっすバイクを打つ。	先生の期待を裏切らないようにする。	お金を使いたくないようにする。	ハマったものなどをわざと値段を見ても買わない。	色々な物に挑戦する。
一日一時間以上べんをしようとする。	<b>勉強</b>	フザケないで授業を受ける。	チャンスボールを毎回セッターのところへ上げる。	<b>部活</b>	もっと上手にボールをリリースアップする。	バックに付けていいのは10個程度にする。(キーホルダー)	<b>趣味</b>	行く時間帯や場所を決めてから行く。
テスト前は一日二時間以上べんをしようとする。	勉強ができる環境に感謝をする。	わからないところがあれば進んで先生に聞きに行く。	みんなで仲良くし、喧嘩しないようにする。	相手の選手がどこにボールを打つのかを見極める。	一日100回はレシーブやトスの練習をする。	ものを大切に使う。	親に相談してから買う。	いらぬものは買ったりしないようにする。
色々な人と話したり仲良くする。	悪口を言わない。	すぐ怒らないうつらなときは冷静になる。	<b>勉強</b>	<b>部活</b>	<b>趣味</b>	一日一回は体を動かす。	けがをしないように気をつける。	体を動かす前は必ず柔軟や体操を一生懸命する。
手伝ってくれた人に「ありがとう」などの感謝の言葉を言う。	<b>人間関係</b>	誰とでも礼儀を正しくする。	<b>人間関係</b>	<b>夢を実現するために</b>	<b>健康</b>	毎日野菜をいっぱい食べる。	<b>健康</b>	お菓子や甘い物を食べないようにする。
人を裏切らない。	みんな平等	人がやだなと思うことや嫌う言葉や言わない。	<b>家</b>	<b>学校</b>	<b>未来(夢)</b>	毎日10:30までには寝る。毎日7:00には必ず起きる。	毎日いっぱい笑う。	3つの夢は必ず取るようにする。
アニメばかりじゃなく、ニュースなどを見る。	親やおばあちゃんやコミュニケーションを取る。	妹と遊んであげる。	遅刻しないように気をつける。	きちんとおもしろくする。	どの教科でもフザケないで真面目に授業を受ける。	一日一枚は絵を書く。	色々な過去問や絵に挑戦する。	親人してもいいようにお金をためておく。
きちんと毎日お風呂を洗う。	<b>家</b>	整理整頓を行う。	笑うところは笑い真面目にする時は真面目にする。	<b>学校</b>	委員会の仕事や係のしごとをサボらないでやる。	デッサンを上手く書けるようにする。	<b>未来(夢)</b>	東京五大に入る。
手伝いを積極的に行う。	きちんと掃除を行う。	二階でお菓子や食べ物を食べない。	忘れ物をしない。	悪い出をいっぱい作る。	進んで動く。	デッサンだけではなく油絵もやっておく。	鈴木先生に絵の書き方のコツをいっぱい聞く。	色々な画家の絵を見ておく。

2 実践の成果と課題

(1) 成果

- マンダラートに書きこんだことで自己実現に向けて自分ができることを実践する生徒が現れた。
- 夢を考えることで、その後の自分の進路や生き方を意欲的に考えるようになった。
- 多くの生徒が、自分の心にも向き合い、これまでの自分や今後の目標を真剣に考え、人間性を高めることにも取り組もうとしていた。

(2) 課題

- 目標を書いたものの、継続が続かず、やりっぱなしになってしまう生徒もいた。振り返る機会を計画的に設定したり、マンダラートに修正を加えたりして継続的に取り組めるようにしたい。
- 実践の場は教育活動全体であることから、今回の実践を意図的に結びつけていくようにする。
- 設定した探究課題を、学年ごとに修正を加えながら主体的な追究につなげていく学習としたい。

# 関東地区特別活動研究協議会 会則

## 【名 称】

第 1 条 本会は、関東地区特別活動研究協議会と称する。

## 【目的及び事業】

第 2 条 本会は、関東 1 都 6 県における特別活動の研究に関して、相互の連絡を図り、その振興向上を図ることを目的とする。

第 3 条 本会は、前条の目的を達成するために下記の事業を行う。

- 1 研究会，研究成果・資料等の交流・発表
- 2 研究協議大会の開催
- 3 その他，本会の目的を達成するために必要な事業

## 【会 員】

第 4 条 本会は、前条の目的に賛同した関東各都県の特別活動研究団体及び個人をもって構成する。

## 【役 員】

第 5 条 本会は、次の役員を置く。

- 1 会 長 1 名 会を代表し，会務を統括する
- 2 副会長 2 名 会長を補佐する
- 3 理 事 若干名 各都県を代表し，理事会に出席し会務を審議する
- 4 顧 問 若干名 全国特別活動研究会会長等

第 6 条 本会の役員は次の通りとする。

- 1 会長は，原則として，研究大会開催都県の会長（代表）をもって充てる
- 2 副会長は，前年度及び翌年度の研究大会開催都県の会長（代表）をもって充てる
- 3 理事は，会長・副会長を除く各都県の会長（代表）をもって充てる

第 7 条 本会の役員の任期は 1 年とする。ただし，理事の再任は妨げない。

## 【理事会】

第 8 条 本会の会務を行うために，理事会を設置する。

- 1 理事会は，役員により構成するが，事務局員の参加も認める
- 2 理事会は，年 3 回（6 月， 1 1 月， 2 月）程度開催する

## 【事務局】

第 9 条 本会の事務局は，会長在勤校の都県に置き，研究協議大会開催都県事務局をもって充てる。

- 1 事務局は会務を執行し，併せて各種の原案を作成する
- 2 事務局会は，必要に応じて随時開催する

## 【会 計】

第 10 条 本会の経費は，研究協議大会開催都県が賄う。

## 令和4年度 関東地区特別活動研究協議会役員名簿

- 会 長 諸田 義行 沼田市立沼田北小学校長  
(群馬県小学校中学校教育研究会小学校特別活動部会部会長)
- 副会長 平松 和巳 宇都宮市立桜小学校長  
(栃木県小学校教育研究会特別活動部会部会長)
- 〃 梅田 竜平 新座市立東北小学校長  
(埼玉県特別活動研究会会長)
- 理 事 秋山美栄子 目黒区立下目黒小学校長  
(東京都小学校特別活動研究会会長)
- 〃 鈴木 俊一 長生村立八積小学校長  
(千葉県教育研究会特別活動・学級経営部会部会長)
- 〃 黒木 康 鎌倉市立富士塚小学校長  
(神奈川県小学校教育研究会特別活動部会会長)
- 顧 問 篠遠 信行 文京区立駒本小学校長  
(全国特別活動研究会会長)
- 〃 吉田 有子 清瀬市立清瀬第七小学校長  
(全国特別活動研究会事務局長)

# 令和4年度 第14回関東地区特別活動研究協議大会群馬大会

## 役員名簿

大会実行委員長	諸田 義行
大会実行副委員長	佐藤 芳正 (運営部長・全体会運営班長)
〃	高橋 伸 (研究部長・研究推進班長)
〃	山同 秀光 (庶務部長・庶務班長)
大会事務局長	三宅 浩樹
大会事務局次長	阿部 かおる 荒木 孝史
大会顧問	櫻井 雅明

運営部副部長・分科会運営班長	宮澤 克巳
運営部副部長・受付・接待班長	萩原 宏明
研究部副部長・研究資料班長	南田 勝
研究部副部長・研究報告班長	高橋 幸伸
庶務部副部長・会計班長	八木 俊昌
庶務部副部長・編集班長	吉田 努

運営部・全体会運営副班長	大山 政人
運営部・分科会運営副班長	富岡 千春
運営部・受付・接待副班長	高橋 和夫
庶務部・庶務副班長	橋本 文明
庶務部・会計副班長	小山 恵司

実行委員	志村 恵美	田村 茂	山田 智広	安田 和広	横山 文子
	田村 美希	長谷川尚生	松島 孝介	天野倫太郎	中曾根美緒
	小金沢真住	前原 康平	小金澤俊郎	長澤 正浩	巻田 美咲
	新井 博文	中澤 尚子			